

「海岸のごみって、何だろう？」学習指導案

■活動の目的

- ・海岸の漂着物には多くの種類があり、発生源もさまざまであることに気づく。
- ・ひとそれぞれの感性によって、漂着物が「宝物」にもなる発見を楽しむ。
- ・自分の生活と海岸ごみとのつながりを実感し、環境の意識を高め、生活を見直すきっかけとする。
- ・交流を通して、漁村や漁業、海辺により親しみをもつ。

■用意するもの

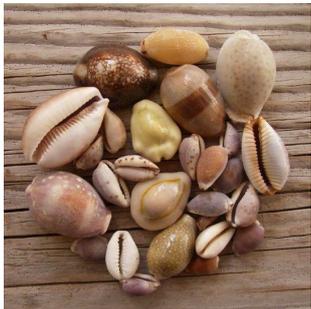
- ・教材「紙芝居」＝「海岸のごみと海洋プラスチックのお話」
- ・「宝物」を入れる袋
- ・漂着ごみを入れる袋（海岸清掃用）
- ・軍手など

■活動の注意点（安全管理）

- ・ボトルやビンに入った農薬や薬品、注射器などの医療廃棄物、ガスボンベなど危険物には手をふれないよう注意をうながす。事前に活動範囲を下見して、危険物が漂着していないか確認する。
- ・ウミケムシ、カツオノエボシなどクラゲ類、アカエイなど、毒のある生き物に手をふれないよう、注意をうながす。

■活動の展開

おもな活動内容	活動内容	注意点
導入	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導者の自己紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしたち漁師は、きれいな海を守るために、海岸のごみを拾う清掃活動もしています」。 ・できれば構成員全員が自己紹介。海との関わり、特技、漁業者なら漁について、ひとことを加える。 ・清掃活動への市民参加の場合は、参加者にも自己紹介してもらう。 2. 事前アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・「海が好きか」、「海のイメージ」、「海は大切か」などの項目でアンケートをとる。 3. ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・この日の活動の流れを説明する。 ・「今日は、この海岸にどんなごみが漂着しているか、調査してみます。もしかしたら『お宝』が見つかるかもしれませんよ」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず名札をつける。ニックネームを入れると、子どもの参加者に親しまれやすい。 ・活動範囲（指導者が安全を見守れる範囲）を決めておく。それより遠くに行かないよう注意。
漂着物の「宝物」探し	<ol style="list-style-type: none"> 1. 5～10人に班分けする。 2. 宝物探し <ul style="list-style-type: none"> ・「この海岸には『宝物』が落ちています」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での授業では1班5人でいどに。先生に班分けをしてもらう。 ・班に1人スタッフがつ

	<ul style="list-style-type: none"> ・「たとえばこのビーチグラス、私は美しいと思って拾いましたが、興味がない人もいるでしょう。『ごみ』か『宝物』かは、人それぞれの感性だと思います」。 ・海岸を歩きながら漂着物をよく見て、「宝物」だと思えるものを探し、拾ってもらおう。 ・時間と行動範囲を伝え、危険物への注意を促す。 <p>3. 「宝物」の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拾った「宝物」の中で一番を決め、班内で発表する。一番のお気に入りの理由を説明してもらおう。  <p>(ビーチグラスや古い陶器片にはコレクターも)</p>  <p>(ウニやヒトデなど棘皮動物の仲間たち)</p>	<p>く。「見守り」と「交流」(親しく会話をする)を意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝探しは、漂着物をよく見る「気づき」の仕掛けでもある。 ・参加人数が少なければ全員集合して発表。  <p>(タカラガイは大昔には通貨にもなった宝物)</p>
<p>漂着物を分類する</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 班を再編成する <ul style="list-style-type: none"> ・学校なら 1 クラス全員。多人数参加のイベントなら、20 人～30 人ぐらいの班に再編成する。 2. 漂着物を分類する <ul style="list-style-type: none"> ・範囲を決めて、海岸の漂着物を集める。 ・砂浜に、ロープや木などを使って 4 つの区画をつくり、以下のように漂着物を分けて置く。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 陸の植物：木、竹、ヨシ、クルミやドングリなどの木の实など ➤ 海と陸の動物：貝殻、魚の骨、ウニの殻、ヒトデ、クラゲ、カニの抜け殻、鳥の羽、フライドチキンの骨など ➤ 海の植物：海藻、アマモなど 	

<p>漂着物の観察</p>	<p>▶ 人工物：ペットボトル、ガラスの破片、缶、ゴム、ロープ、漁具、プラスチック片など</p>  <p>3. 漂着物を観察する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合して、どんなものがあるか、観察する。 ・どこからなぜ流れ着いたのか、想像する。 ・人工物の漂着物が多いことに気づかせる。 ・プラスチックや発泡スチロールは細かい破片になっていることに気づかせる。 <p>4. 「海岸のごみ」とは何かを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漂着物のうち、どれがごみでしょうか？」。 ・砂浜には、ハマトビムシやバクテリアなど、海藻やさまざまな動植物を食べて分解する「お掃除屋さん」がいる。動植物の漂着物は、自然界の「食べる・食べられる」の関係の中にある。 ・しかし人工物、とくにプラスチックは、自然界の「食べる・食べられる」の関係に組み込まれていない。分解されるのに、とても長い時間がかかるので、海にたまりつづけてしまう。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ハマトビムシ。漂着した海藻を動かすとピョンピョン飛び出す。
<p>海ごみについて学ぶ</p>	<p>教材「紙芝居」を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海のごみ、とくに大きな環境問題となっている海洋プラスチックについて学ぶ。 ・自分たちの生活との関わりを考える。 	
<p>海岸清掃</p>	<p>海岸清掃の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で海岸の清掃活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めたごみは、自治体のルールにしたがって処分する。
<p>まとめ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感想をまとめ、共有する 2. 事後アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・学習の前と後で、どのような変化があったか評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートと同じ項目にする。

■危険生物の例

ウミケムシ	カツオノエボシ	アカエイ
		
全身のとげに毒	糸状の触手に毒	尾のとげに毒